

令和8年度版

かながわの学びの充実・改善のために

令和8年度 全国学力・学習状況調査
神奈川県公立小・中学校調査結果の分析・活用資料

「頑張ったね」の、種をまこう



全国学力・学習状況調査はその名の通り、子どもたちの「学力」の定着度合とともに、どのような「学習状況」で日々取り組んでいるのかを確認することができる総合的な調査です。この調査結果からは、子どもたちの学びに対する思いや願い、つまり、子どもたちの「こえ」を読み取ることができます。先生方はその「メッセージ」を基にして、子どもたちとどのように学びを紡いでいくのかを考えることが大切です。

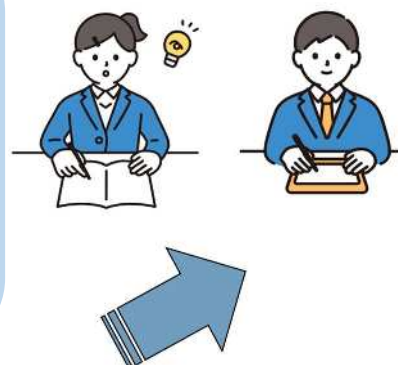
子どもたち一人ひとりの学びのさらなる充実を目指し、学校全体でたくさんの「頑張ったね」の、種をまきましょう。

令和8年10月
神奈川県教育委員会

小さな一歩から、大きな成果へ。 かながわの子どもたちの未来を拓く！ ～学びの充実・改善のためのRPDCAサイクル～

Check !

- すべての学年で、全国学力・学習状況調査と同じ質問項目の調査を年間複数回行うなど、変容を比較・分析している
- 自身の授業改善のために、他の先生の授業を見たり、自分の授業を公開して、見てもらったりしている
- 改善が必要だった指導事項を再度取り上げて指導している
- 児童・生徒のよい点や、課題解決に向けた手立てなどを、家庭と共有したり、地域に発信したりしている



Check !

Action 改善

- 目標の達成状況に基づく新たな目標の設定
- 評価結果に基づく改善策の検討

重点 1



子どもたちの
学びに対する
意欲の向上

重点 3



授業改善の推進

- 児童・生徒一人ひとりが、授業の中で、自分の考えを表出できる（異なる考えを認め合える）雰囲気がある
- 児童・生徒が振り返りなどを行うことで、自身にあった学び方を見つける機会を設定している
- 日頃の授業などで、児童・生徒の「分かった点」や「よく分からなかった点」を把握している
- 児童・生徒が学びを深められるような問いかけや、認め励ます声かけ、評価を行っている



Check 振り返り・評価

- 目標の達成に向けた実践効果の客観的な把握
- 目標の達成状況に対する自己評価の実施

いくつ Check がつきますか？

子どもたちの学びの充実・改善のためには、下の RPDCA サイクルを回していくことが大切です。自分自身を見つめ直し、当てはまるものには✓をつけましょう。次のページからは、全県の傾向を踏まえて設定した重点事項ごとにポイントをまとめています。



※次ページから示されている表やグラフの数値は、神奈川県内の公立小・中学校の数値です。

Check !

Research 状況把握

- 全国学力・学習状況調査の結果分析
- 自校の児童・生徒の課題、資源の把握

- ☐ 全国学力・学習状況調査の問題を解いた
- ☐ 自校の児童・生徒の学習面における「強み」と「課題」を端的に説明（言語化）できる
- ☐ 自校の児童・生徒の誤答を分析している
- ☐ 国が出した「報告書」を読んだ
- ☐ 地域の人的・物的資源を把握している

Plan 計画

- 具体的で検証可能な目標の設定
- 目標と計画の作成・共有

Check !

自分の考えを
文章等で表現する
力の向上

重点 4



地域・家庭と学校が
連携・協働した
教育活動の推進

- ☐ 指導事項に即した学習内容となるよう、単元や題材ごとの指導計画・評価計画を立てている
- ☐ 学習を通して実現を目指す児童・生徒の姿や育成を目指す資質・能力が明確になっている
- ☐ 児童・生徒のつまづきを予測し、手立てを複数考えている
- ☐ 学習内容に関する系統性や既習事項を理解している

Check !

Do 実践

- 計画に沿った学習活動の展開
- 研究授業の実施

- ☐ 児童・生徒が見通しをもって学習できるよう工夫している
- ☐ 児童・生徒が興味・関心をもって学習を進められるよう工夫している
- ☐ 意図的・計画的に他者と交流し、自分の考えを検討する場面を設けている
- ☐ 児童・生徒一人ひとりをよく観察し、適切なタイミングで支援や評価を行っている

重点1 子どもたちの学びに対する意欲の向上



肯定的な回答をした児童・生徒の割合（全県）

質問 番号	質問	小学校	中学校	あなたの学校		
				4月	月	月
(53)	国語(53)、算数・数学(61)、英語(70)の勉強は好きですか。  まずはあなたの学校の数値を入れてみましょう。	57.8	57.6			
(61)		58.4	57.4			
(70)		67.0	53.3			

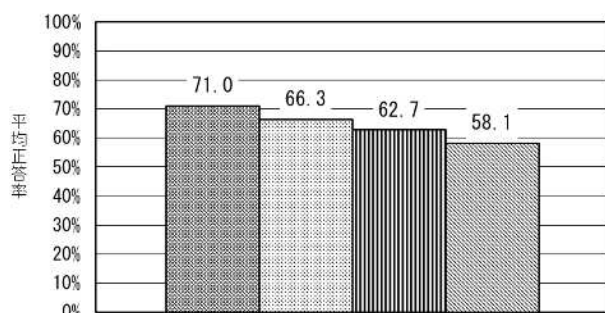
質問 番号	質問	小学校	中学校	あなたの学校		
				4月	月	月
(44)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。	80.2	77.3			
(54)	国語の授業の内容はよく分かりますか。	82.3	77.9			
(62)	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。	77.1	76.4			

継続的に質問調査を行い、数値を記入することで、児童・生徒の変容を見ていきましょう。

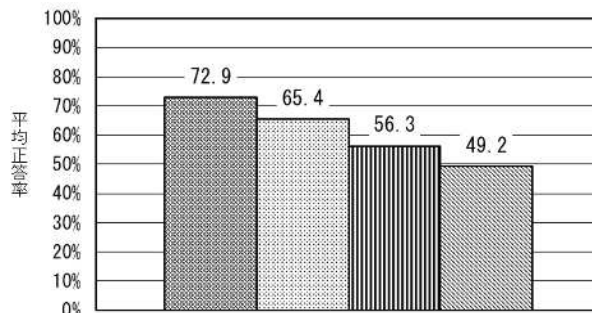
◆生徒質問調査(53)(54)と中学校国語の平均正答率とのクロス集計に着目すると・・・

■1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる ■3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない

【(53) 国語の勉強は好きですか。】



【(54) 国語の授業の内容はよく分かりますか。】



➡「教科の勉強が好き」「授業の内容はよく分かる」と回答した生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られます。※小学校算数、中学校数学・英語でも同様の傾向が見られました。



「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。」では、約8割の児童・生徒が肯定的な回答をしています。

「授業がよく分かる」と回答している児童・生徒も8割近いですが、この児童・生徒の実感と実際の学習状況はどの程度結びついているのでしょうか。

「授業の内容がよく分かる」への回答と、「教科の勉強が好き」への回答には大きな差があり、課題があると考えられます。子どもたちが「教科の勉強が好き」となるような、『きっかけづくり』や『工夫・手立て』を意識した授業づくりを行っていくことが、児童・生徒の『もっと学びたい』『もっと知りたい』につながりそうですね。



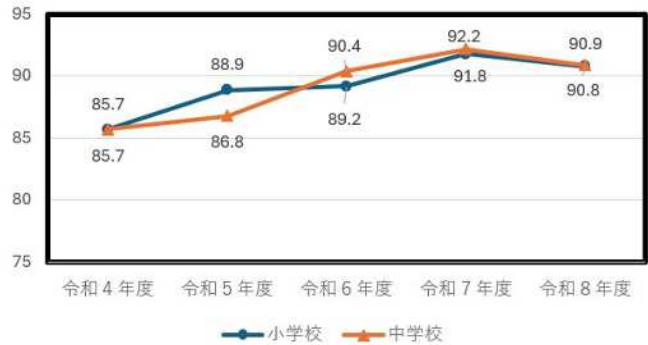
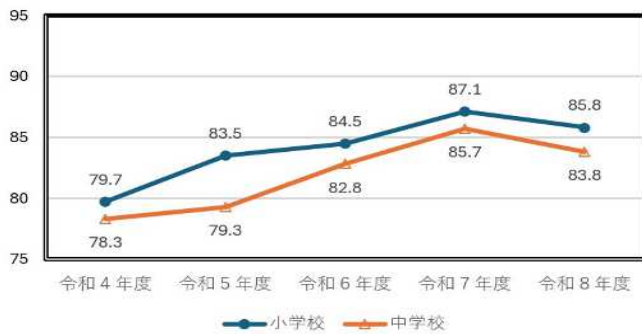
考えてみましょう!!

子どもたちの『もっと学びたい』につながる『きっかけ』『工夫・手立て』を書いてみましょう。



◆児童・生徒質問調査(8)(9)の経年変化に着目すると・・・

【(8) 自分には、よいところがあると思いますか。】 【(9) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。】



➡これらの項目は、数年間では増加傾向にありますが、今年度はわずかに減少しました。

学校生活の全体を通じて、児童・生徒の「よさや可能性」を見だし、先生方で共有し、肯定的な声かけなどをしていくことも、児童・生徒の自己肯定感を高めることにつながります。

◆児童・生徒質問調査(8)(9)に着目すると・・・



多くの子どもが先生からよさを認められていると感じています。子どもたち自身が自分自身のよさを実感する機会をつくることも必要だと考えられます。皆さんの学校の子どもたち一人ひとりの「よさや可能性」は、どのようなものでしょうか。先生同士で、互いに伝え合ってみましょう。もしかしたら、その子どもについて新たな気づきがあるかもしれませんよ。

伝え合ってみましょう!!



すべての子どもの「よさや可能性」を挙げて、伝え合ってみましょう。新たな気づきがありますか？



結果だけではなく、子どもが挑戦する姿や目標に向かう姿勢の過程を認め、「自分にもできる」という実感につなげましょう。子どもたちのよさをフィードバックしていきましょう。



子どもたち自身が、互いの考え方や工夫、それぞれの取組の過程に目を向けて伝え合うことで、自分では気づかなかったよさに気づくことができます。よさを認め合う経験を積み重ねることが、次の学びへの意欲や自信につながります。こうした取組を、日々の授業に取り入れてみましょう。



ここに注目!!

「できたところ」「よいところ」をみつけあい、互いに伝え合う活動事例

【開成町立開成南小学校第3学年「体育：器械運動(跳び箱運動)」】

開成南小学校では、子ども同士が互いのよさを認め合う「すてきさん」という合言葉があり、指導において一貫して使う言葉となっており、家庭や地域とも共有しています。体育の授業においては、友達の「できたこと」「よいところ」をみつけた際に両手タッチの「すてきさん」ポーズを取り入れて伝え合うことで、互いを認め合う場をつくっています。こうした活動を通して、友達のよさに気づき、認め合うことのよさを実感することにつながっています。



CHECK!!

子どもが輝く学級経営につながる学級担任の指導のポイント
(R8. 3月改訂)

学級経営は児童・生徒の学びや成長に密接に関連しています。
「児童・生徒理解」
「集団づくり」について振り返り、今後の目標につなげてみましょう。



POINT!!

先生が、子どものよさや可能性を積極的に認めるとともに、子どもたちが互いを認め合い、学び合える授業づくりや学級づくりに取り組んでいくことが重要です。

重点2 自分の考えを文章等で表現する力の向上



◆全国学力・学習状況調査の問題形式に着目すると… (上段：平均正答率、下段：無解答率)

	小学校 国語	小学校 算数	中学校 国語	中学校 数学	あなたの学校	
					国語	算数・数学
選択式	63.1	57.5	74.2	60.9		
	2.1	3.4	0.4	0.8		
短答式	59.6	61.2	55.8	66.5		
	7.9	3.9	7.6	4.8		
記述式	53.1	48.9	46.2	41.4		
	12.4	4.8	13.3	27.5		

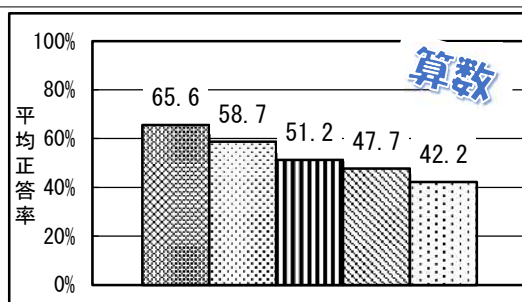
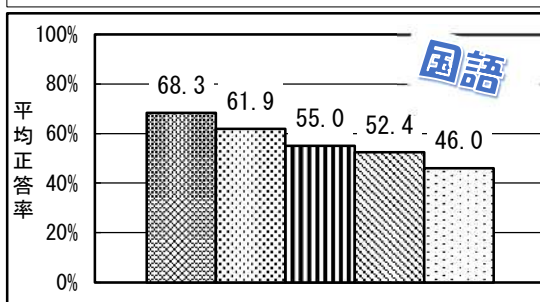
➡問題形式に着目すると、選択式や短答式に比べて、記述式の問題の平均正答率が低く、無解答率は高い傾向にあります。

◆児童・生徒質問調査の自分の考えを整理することに関する問いに着目すると…

児童質問調査(38)と小学校の各教科の平均正答率とのクロス集計

(38)「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」

□1.発表していた □2.どちらかといえば、発表していた □3.どちらかといえば、発表していなかった □4.発表していなかった □5.考えを発表する機会がなかった



➡自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している児童ほど、国語、算数の平均正答率が高い傾向が見られます。
※中学校の国語、数学、英語の調査でも同様の傾向が見られました。

丁寧な分析をするためには、正誤の結果だけを見るのではなく、それぞれの子どもたちの解答状況を把握することが大切です。無解答だった場合も問題が難しかったのか、時間が足りなかったのか…子どもによって要因は様々です。子どもたちの実態を把握する一助として、国立教育政策研究所が出している各教科の「報告書」を活用し、「解答類型」を参考にして学校の先生方全員で分析するのもよいですね。

今年度の小学校国語²四を用いて校内研究で分析することをイメージしたスライド資料を作成しました。各学校で分析をする際の参考にしてみてください。

教科担当、該当学年だけでなく、学校全体で分析することが大切です！



理解を深める

つまずきの原因を探る

出題意図や傾向を把握する

授業改善に活かす

STEP①

問題を
解く

STEP②

誤答例を
分析する

STEP③

報告書を
読む

STEP④

授業改善策を
検討する

まずは先生方が問題を解き、何の資質・能力が身に付いているのかどうかをみる問題なのかを考えましょう。

①なぜ誤答になるのか？
②自校では、どの反応率が高いか？
③どこにつまずきがあるのか？
④そのつまずきはなぜ起きたのか？
※具体の解答を分析しましょう！

問題の趣旨を確認して、解答類型と反応率に注目して分析しましょう。

「学習指導に当たって」や「授業アイディア例」を基に授業づくりにおいて大切な視点は何かを検討し、学校全体で共有しましょう。



詳しくはこちら👉



子どもたちの解答状況を把握した後は、自身の授業を見直すことが大切です。「国語」以外の授業においても、次のチェックポイントで確認してみましょう。

CHECK!!

- 単元で育成を目指す資質・能力が明確になっている。
- 指導事項の内容が身に付くような学習課題・言語活動が設定されている。
- 言語活動では、目的意識や相手意識が明確になっている。
- 具体的な手立てを講じた上で、言語活動がなされている。

ただ「やっている」という状況にならないように、ペアやグループで行う理由を全体で確認することが大切です。



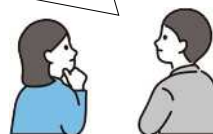
授業改善のヒント!

全国学力・学習状況調査の問題や「授業アイデア例」を読み、どのような課題設定がなされているのか、言語活動を行う際に教員がどのような支援や手立てを講じているのかを確認しましょう。

教員が意図的・計画的に授業を構想し、実施していくことが、子どもたちの力の育成につながります。

文章で自分の考えを表現する力を育てるためには、他にも何かあるのかな？

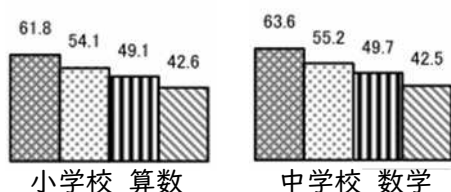
「読書」についての児童・生徒質問調査結果はどうだろう？
「読むこと」と「書くこと」にはどんな関係があるのかな？



◆児童・生徒質問調査の「読書」に関する問いに着目すると…

児童・生徒質問調査（31-2）「読書は役に立つと思いますか。」と算数・数学の平均正答率とのクロス集計

☒ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☒ 当てはまらない



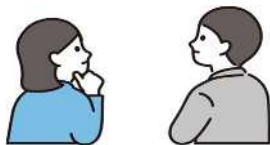
➡国から示された左の結果からもわかるように、「読書は役に立つ」と考えている児童・生徒ほど、算数と数学の平均正答率が高い傾向が見られます。

※小学校国語、中学校国語及び英語においても同様の傾向が見られました。

☆文部科学省・国立教育政策研究所の結果(概要)によると、『「読書は役に立つ」に関する回答と『課題解決に向けた積極性』『地域や社会への寄与意識』に関する回答の間には相関がみられる』とあります。

生徒質問調査（67）
「数学の授業で、文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することはできている」と考えている生徒ほど、各教科の平均正答率・スコアが高いという結果もあります。

「読む力」と「書く力」は強く関連しているため、読む力の向上が書く力の基盤となります。文章を正確に理解できなければ、的確な表現も難しいため、まず読む力を育てることが書く力の向上に不可欠ですね。



今求められている「読む力」とは？

様々な文章を読んで、そこに含まれる情報の信頼性や情報同士の形成を確かめ、自分の考えをもつ力

- ・国際的にも育成が求められているが、課題が見られる。
- ・現行の学習指導要領でも育成を目指している。



国語での指導に当たっては、次の2点がポイントです！

- ・[思考力・判断力・表現力等]「C読むこと」の事項における系統的な指導
- ・[知識及び技能]の事項と関連付けた指導

考えてみましょう!

子どもたちの「読む力」を育むために、授業で意識していることはありますか？具体的に書きましょう。



POINT!!

自分の考えを文章等で表現する力の向上のためには、子どもたちの解答状況を把握するとともに、「報告書」や「授業アイデア例」を活用して自身の授業改善に取り組むことが大切です。そして、学習指導要領の指導事項を確認し、系統性を意識して指導しましょう。

重点3 授業改善の推進

◆児童・生徒質問調査の、授業の中での ICT 機器の活用に関する問いに着目すると…

質問番号	質問	小学校	中学校	
(35)	前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をほぼ毎日使っている。	51.3 43.0	61.9 55.1	県 全国



全国と比べても、頻繁に活用されていることが分かりますね。



あなたはどのような効果を期待して、授業で ICT 機器を活用していますか。



◆児童・生徒質問調査の、学び方の工夫等に関わる各問いに着目すると…

質問番号	質問	小学校	中学校	あなたの学校		
				4月	月	月
(22)	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	79.4	78.8			
(36-2)	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど) ことができると感じますか。	86.2	92.1			

児童・生徒質問調査(22)及び(36-2)と小・中学校の国語の平均正答率とのクロス集計

小学校・国語

中学校・国語



2つのクロス集計のグラフを重ねてみると、同じような傾向を示していますね。

- ① そう思う
- ② どちらかといえば、そう思う
- ③ どちらかといえば、そう思わない
- ④ そう思わない

➡児童・生徒が学び方を選択できる状態にあるほど、児童・生徒の国語の平均正答率は高い傾向にあります。

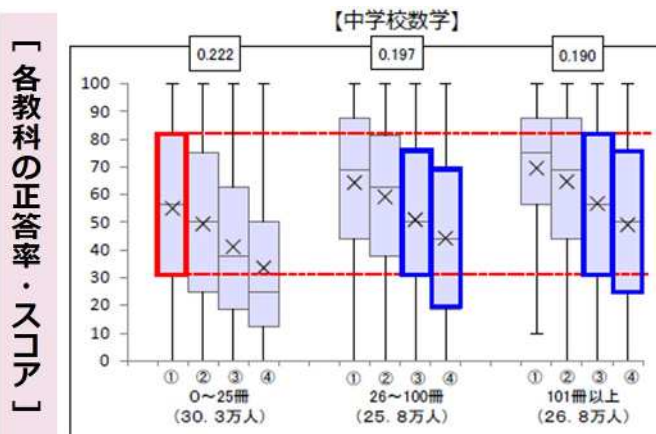
※小・中学校の算数・数学、英語の調査でも同様の傾向が見られました。

◆さらに、家庭の社会経済的背景(※SES)と ICT 機器の活用の関係に着目すると…

※SES:Socio-Economic Status

[家にある本の冊数] × [ICT 機器を使ってプレゼンテーションを作成することができる] × [教科の正答率・スコア]

SES が低い状況にあっても、ICT 機器を活用する自信がある生徒は、各教科の正答率・スコアが高い傾向が見られます。「SES」×「ICT 機器の活用」×「正答率」で三重クロス集計してみると、左のような箱ひげ図になります。



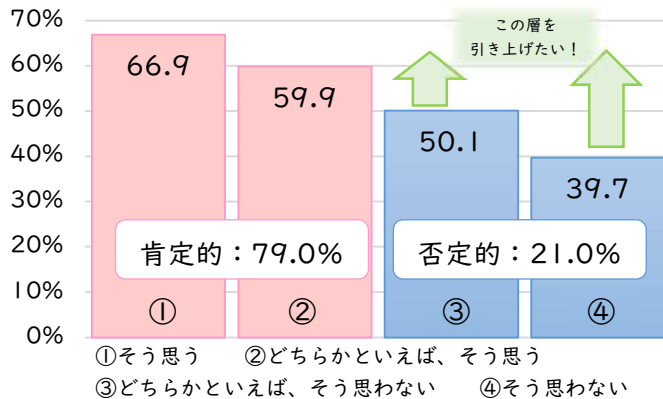
例えば中学校数学では、低SESグループ(本が0~25冊)で ICT 機器の活用の質問に「①」と回答した生徒の箱ひげ図の箱は、中SESグループ(本が26~100冊)で「③」「④」と回答した生徒及び高SESグループ(本が101冊以上)で「③」「④」と回答した生徒の箱より上の位置(正答率が高い位置)にあります。

➡国から示された上の結果からもわかるように、効果的に ICT 機器を活用しながら、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善をすることは、SESの高低に関わらず、児童・生徒の学力の向上につながります。

◆児童・生徒質問調査の、「主体的な学び」に関わる問いに着目すると…

質問 番号	質問	小学校	中学校	あなたの学校		
				4月	月	月
(43)	学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	77.0	79.0			

生徒質問調査(43)と中学校数学の平均正答率とのクロス集計



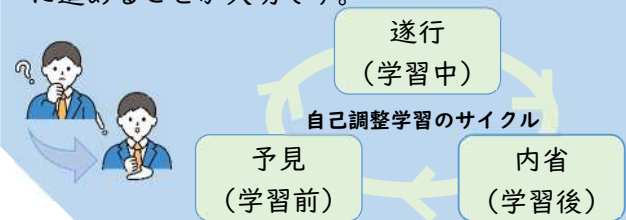
考えてみましょう!!

子どもたちが「分かった点」や「よく分からなかった点」を見直し、次の学習につなげられるように、あなたはどのような工夫をしていますか。



POINT!!

子どもたちが自分で学びを進めていくためには、学びを効果的に進める工夫を計画的に行い、自己の学習状況を把握（メタ認知）しながら学び方を工夫して学習を進め、学習結果の原因・理由や学び方について振り返り、次の学習に進めることが大切です。



授業の終わりに「今日の学習を振り返りましょう」と言って、時間を確保するようにしていますが、これでよいのでしょうか。

振り返りでは、子どもたちはどんな内容を書いていますか。



「難しかった」や「少し理解できた」など感想のような文章が多いかもしれません。具体的に「どういうところで困ったのか」などかけるとよいのですが…。

振り返りの大切な目的は、子ども自身が、自分の学びを見つめなおし、自分にとって最適な学び方に気づいて次の意欲を高めることです。振り返りが形式的なもので終わらず、子どもの学びが深まるような言葉かけも意識できるとよいですね。



子どもたちが振り返りの仕方に慣れるまでは、視点を示すことも有効です。

【振り返りの視点例】

何が分かったのか／どこで考えが変わったのか／どの方法が役に立ったのか／まだ何が分からないのか／次はどう学ぶのか

ここまでを踏まえ、自分の授業を振り返ってみましょう!

- 子ども自身が学習に必要なタイミングでICT 機器へアクセスを可能としている。
- それぞれの子どもにとって学びやすい学習スタイルを選択することができるようになっている。
- 単元等の始まりで、目標の設定や効果的に進める工夫を行っている。
- 日頃の授業などで、子どもたちの「分かった点」や「よく分からなかった点」を把握している。
- 単元等の終わりで、子どもたちの学習状況等を把握し、次の単元等に生かしている。
- 子どもが振り返りなどを行うことによって、自身に合った学び方を見つける機会を設定している。

POINT!!

主体的・対話的で深い学びを実践するために、「子どもたちが自分の学習状況を把握し、学び方を選択できるようにすることや、「先生が子どもたちの学習状況を正しく見取り、実態に応じた授業づくりをする」ことが重要です。

重点4 地域・家庭と学校が連携・協働した教育活動の推進

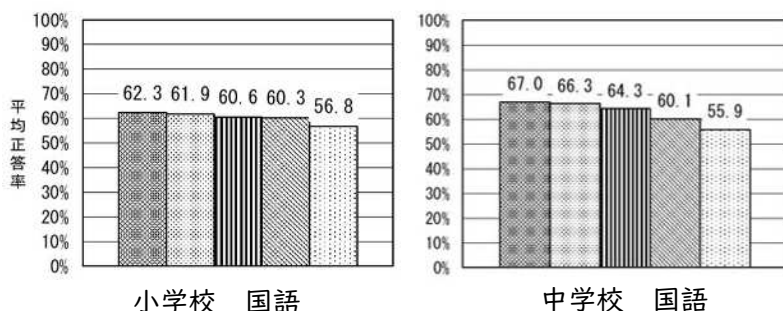


◆児童・生徒質問調査の、学校での学習状況に関わる各問いに着目すると…

質問 番号	質問	小学校	中学校	あなたの学校		
				4月	月	月
(6)	学校の勉強のことについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか。	73.1	71.3			

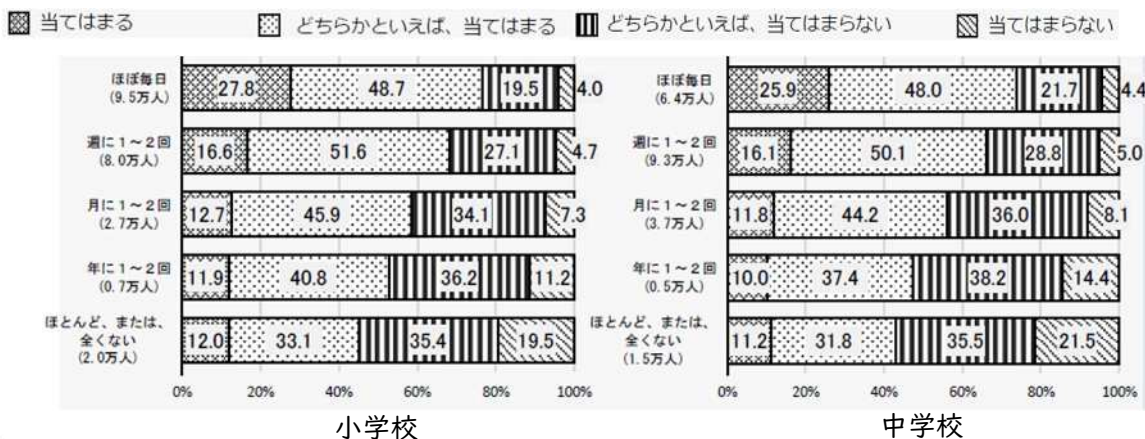
児童・生徒質問調査(6)と小・中学校の国語の平均正答率とのクロス集計

■1.ほぼ毎日 ■2.週に1～2回 ■3.月に1～2回 ■4.年に1～2回 ■5.ほとんど、または、全くない



→家庭において、学校での学習状況について話題にしている児童・生徒ほど、国語の平均正答率が高い傾向が見られます。
※小・中学校の算数・数学、中学校の英語の調査でも同様の傾向が見られました。

児童・生徒質問調査(6)と(32-2)【自分の理解を確認するために、学習したことを振り返る】とのクロス集計



国から示された上記の結果からも分かるように、学校の勉強のことを親や家族と話している児童・生徒ほど「自分の理解を確認するために、学習したことを振り返る」傾向があることが分かります。

やはり、子どもたちの成長を後押しするためには、保護者の協力も必要ですね。児童・生徒質問調査(6)には「話をする」とありますが、こういった内容の話題があると、子どもたちの力の育成につながっていくのでしょうか？

例えば、学習内容や、その過程に関する話題が考えられます。「今日学校どうだった?」「〇〇(学習内容)が楽しかった。」に留まらず、子どもにとって改めて学習を振り返る機会となり、次の学習に生かすことが想定されるからです。

家庭学習の習慣化を促すチラシを作成したので、ぜひ保護者会や面談でご活用ください。



POINT!!

子どもたちが自身の学びの目的や進捗を捉え、学び方を調整していきながら主体的に育成を目指す力を身に付けられるよう、日々の授業において子どもたちと、単元内の各授業のめあてや学習内容、評価の方法やタイミング等の学習計画を共有していくことが大切です。

◆児童・生徒質問調査の「地域や社会との関わり」、「話し合いを通じた意思決定による実践」に関わる各問いに着目すると…

質問番号	質問	小学校	中学校	あなたの学校	接続学校
(33)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	81.0	70.0		
(50)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。	75.5	76.5		



子どもたちの成長のためには、「地域や社会との関わり」と「話し合いを通じた意思決定による実践」を関連付けた活動も大切ですね。

共有しましょう!!



「地域や社会をよくしたい」と回答している子どもたちが多く、日々の教育活動において、あなたはどのように「地域や社会との関わり」を取り入れていますか。具体的に書き出し、その実践のねらいや活動内容などを教職員間で共有しましょう。



ここに注目!! 学校運営協議会を効果的に活用し、教育活動の充実につなげている事例

学校と地域が目標を共有し、地域ぐるみで子どもたちの成長と地域づくりを進めるため、学校運営協議会があります。学校運営協議会は、学校の運営や学校への必要な支援について協議する場で、教職員、地域住民、保護者や児童・生徒など多くの立場で熟議を重ね、学校の運営に取り組むことができる仕組みです。

【厚木市立毛利台小学校】

学校運営協議会をとおし、次の3つの取組を設定しました。学校と地域が対等なパートナーとして強く連携し、児童の学びと成長を力強く支えるとともに、多様な地域人材の参画を広げ、地域全体で子どもを温かく見守り育てる持続可能な協働体制を築いています。

- ・「本気のラジオ体操」… 夏休み明けの生活リズムづくりや健康促進、地域交流を目的としています。子どもが主体的に運営に参画し、スポーツ振興会や地域団体、店舗など多様な地域の協力を得て、世代を超えた温かい交流が生まれています。



「本気のラジオ体操」に取り組む児童たち

- ・「みつやまなびベース」… 地域住民の見守りのもと、子どもが自ら学習内容や進め方を選択できる環境を整え、学習習慣の定着と主体的に学ぶ力の育成を図っています。
- ・「ボランティアスタンプ制度」… 地域住民が得意分野や都合に応じて気軽に学校支援に参加できる仕組みを構築し、授業支援や見守り、学校行事への継続的な参画を促進しています。

POINT!!

地域の魅力や材を活用した探究活動を設定したり、地域の特長を学習課題に取り入れたりしながら、その学校ならではの教育活動の充実を図り、子どもたちが学習を自分の事として捉えられるようにしましょう。

校内研修での活用の仕方

校内研修活用
データはこちら➡



STEP1

- ・担当者は、二次元コードの
・ワークシート①・②に自校のデータを入力する。
・入力を終えたら、ワークシート①・②を印刷する。

STEP2

- ・ワークシート①・②を基にして、全教員で、自校の子ども達の強みと課題を分析する。
○よく取り組めていた問題から、どのような授業や活動が効果的だったかを考える。
○課題のあった問題から、弱点やつまづきを明らかにしてみる。
○無解答率に着目してみる。
- ・ワークシート③を参考に、学校としてできること、それぞれの教員でできることを考える。

STEP3

- ・実際に授業づくり、実践を行う。(互いに見合い、アドバイスし合うのは効果的!)
- ・同じ質問項目でアンケートを行う。(子どもたちの変容を見取る。)

学年	教科	単元	問題番号	正答率	無解答率	備考
1	国語	1	1	80.2	77.3	
1	国語	1	2	82.3	77.9	
1	国語	1	3	77.1	76.4	
1	国語	1	4	80.2	77.3	
1	国語	1	5	82.3	77.9	
1	国語	1	6	77.1	76.4	
1	国語	1	7	80.2	77.3	
1	国語	1	8	82.3	77.9	
1	国語	1	9	77.1	76.4	
1	国語	1	10	80.2	77.3	
1	国語	1	11	82.3	77.9	
1	国語	1	12	77.1	76.4	
1	国語	1	13	80.2	77.3	
1	国語	1	14	82.3	77.9	
1	国語	1	15	77.1	76.4	
1	国語	1	16	80.2	77.3	
1	国語	1	17	82.3	77.9	
1	国語	1	18	77.1	76.4	
1	国語	1	19	80.2	77.3	
1	国語	1	20	82.3	77.9	
1	国語	1	21	77.1	76.4	
1	国語	1	22	80.2	77.3	
1	国語	1	23	82.3	77.9	
1	国語	1	24	77.1	76.4	
1	国語	1	25	80.2	77.3	
1	国語	1	26	82.3	77.9	
1	国語	1	27	77.1	76.4	
1	国語	1	28	80.2	77.3	
1	国語	1	29	82.3	77.9	
1	国語	1	30	77.1	76.4	

学年	教科	単元	問題番号	正答率	無解答率	備考
1	国語	1	1	80.2	77.3	
1	国語	1	2	82.3	77.9	
1	国語	1	3	77.1	76.4	
1	国語	1	4	80.2	77.3	
1	国語	1	5	82.3	77.9	
1	国語	1	6	77.1	76.4	
1	国語	1	7	80.2	77.3	
1	国語	1	8	82.3	77.9	
1	国語	1	9	77.1	76.4	
1	国語	1	10	80.2	77.3	
1	国語	1	11	82.3	77.9	
1	国語	1	12	77.1	76.4	
1	国語	1	13	80.2	77.3	
1	国語	1	14	82.3	77.9	
1	国語	1	15	77.1	76.4	
1	国語	1	16	80.2	77.3	
1	国語	1	17	82.3	77.9	
1	国語	1	18	77.1	76.4	
1	国語	1	19	80.2	77.3	
1	国語	1	20	82.3	77.9	
1	国語	1	21	77.1	76.4	
1	国語	1	22	80.2	77.3	
1	国語	1	23	82.3	77.9	
1	国語	1	24	77.1	76.4	
1	国語	1	25	80.2	77.3	
1	国語	1	26	82.3	77.9	
1	国語	1	27	77.1	76.4	
1	国語	1	28	80.2	77.3	
1	国語	1	29	82.3	77.9	
1	国語	1	30	77.1	76.4	

分析・活用資料の校内研修での使用例

※校内研修例①(重点1)

質問項目	内容	小学校	中学校	あなたの学校
(1) 授業で学ぶことが、次の学習や実生活に結びつけて考えられ、定着していることがよく分かりますか。		80.2	77.3	
(2) 課題の授業の内容がよく分かりますか。		82.3	77.9	
(3) 算数・数学の授業の内容がよく分かりますか。		77.1	76.4	

児童・生徒の『もっと学びたい』につながる『きっかけ』『工夫・手立て』について、各教科の視点から考えてみましょう。

校内研修後や学年末などの
タイミングでこのパンフ
レットの2・3ページを再度
チェックしてみましょう。



スマホやSNSと上手に付き合い、
学ぶ時間を大切にしましょう。

SNSや動画視聴の時間と、各教科の平均正答率をクロス集計したところ、小中の全教科で、「30分より少ない」と回答した児童・生徒の正答率が最も高く、「4時間以上」と回答した児童・生徒の正答率が最も低いことが分かりました。



神奈川県では子どもたちのスマートフォンなどの正しい利用について「スマホやSNSと上手に付き合いおう」を作成しています。子どもと一緒に利用のルールを考えるとともに、上手に付き合える力を身に付けられるようサポートする上で御活用ください。



二次元コードはこちら➡



〒231-8588
神奈川県横浜市中区日本大通1
神奈川県教育委員会



神奈川県教育委員会
の主な取組はこちら